

2017 年度 外国語電子教材作成支援 研究成果報告書

プロジェクト NO : 3-4

プロジェクト科目名 : 朝鮮語 インテンシブ I

代表者 : 柳町功 (総合政策学部)

1. プロジェクトの概要

S F C の朝鮮語科目では、2016 年秋学期から柳町功 (総合政策学部 教授) の監督のもと、高木丈也 (専任講師 (有期))、金泰仁 (訪問講師 (招聘)) を中心に教材開発に着手してきた。これまでに作成した教材は、『S F C 朝鮮語 I / II』(テキストベース) として 2017 年度より順次インテンシブ I・II、ベーシック I・II の各クラスで使用されているが、我々は今後、さらなるカリキュラム改革を行なうとともにこのテキストを多様なコンテンツと融合させ、教室の内外を問わず能動的に学ぶことができる教材として広く社会に提供していきたいと考えている。こうした目的のもと、2017 年度は『S F C 朝鮮語 I』の副教材として音声、動画教材の作成を企画した。この音声、動画教材は、学習者用に過度な編集を加えた従来型のスタイルではなく、実際の朝鮮語圏の社会や文化を疑似体験できる本格的、かつ実用的なものを目指すものである。本教材の導入により、語彙・文法・発音をテキストや C D から無味乾燥に学ぶというこれまでの教材とは一線を画す学習が可能になることはもちろん、S F C、そして朝鮮語研究室が掲げるコミュニケーション重視、さらには現場主義という方針を初級段階から支える強力なツールとして機能することが可能になると期待される。

2. プロジェクトの具体的内容

本プロジェクトは、動画教材の撮影、編集とそのオンライン上での公開という 2 つの大きな柱から構成される。動画教材の撮影は韓国ソウルで行なわれ、『S F C 朝鮮語 I』の 9 課から 25 課までの全ての課、およびおよそ 5 課ごとに挿入されている応用会話 1～4 の計 21 課分の会話を撮影した。

各期間における具体的な作業内容と予算の執行状況を示すと、以下の通りである。

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| 6 月中旬～下旬 | S F C 教員、および動画撮影協力者とのミーティングを複数回実施 |
| 7 月上旬～8 月上旬 | 動画撮影地の選定、演者の選定、機材の確保、日程の調整 |
| 8 月 15 日～9 月 3 日 | 韓国ソウルにおいて動画撮影 |
| | 【S F C 教員の韓国滞在費用の一部を支出】 |
| | 【登場人物 4 名、撮影補助者 2 名への謝金を支出】 |
| 9 月初旬～10 月初旬 | 動画の編集作業を実施 |

【編集補助者2名への謝金を支出】

10月中旬～11月下旬 SFCの学生と協同し、ハングルによる字幕挿入作業を実施

【編集機器購入費用を支出。編集補助者2名への謝金を支出】

12月上旬以降 オンライン上へのアップデート作業

学生や教員への公開、およびフィードバックに対する修正作業

<動画撮影の様子>



3. 本プロジェクトの成果

本プロジェクトの成果は、以下の3つである。

1つ目は、入門期に文字と音声をバランスよく学ぶことが可能になるという点である。朝鮮語は、子音同化が頻繁に起こることから、文字と発音の乖離が極めて大きく、入門期の学習者にとっては、大きなストレスとなることが多い。今回作成した教材では、例えば動画を見ながら、ハングルの字幕（文字）と発音の異同を確認することが可能になるため、学習者がこのような弱点を早期に克服することに寄与するものと期待される。

2つ目は、より自然な会話能力の習得が可能になるという点である。韓国で標準語と規定されるソウル方言による音声をリピート練習やシャドーイングに活用することで、自然なイントネーションの習得に役に立つことが期待される。また、我々のオリジナル教材では、会話本文は単に学んだ文法項目の確認の場としてだけではなく、朝鮮語圏の社会や文化、習慣を学ぶことができる1つの機会としても位置付けている。そのため、今回、作成した動画教材を通じて朝鮮語圏の言語社会を疑似体験することが可能になり、学んだ言葉が実生活の中でどのように使用されているかをより明確に意識することができるようになる点も大いに期待される。

3つ目は、時間と場所を選ばない学習が可能になるという点である。従来型の教材におい

では、CD ラジカセやパソコンがなければ音声や動画の再生ができなかったが、本教材ではスマートフォンやタブレットさえあれば、いつでもどこでも学習サイトに簡単にアクセスできるようになる。このように教材へのアクセシビリティを高めることにより、学習者の朝鮮語の学習時間が増え、朝鮮語の能力が向上することが期待される。

3. 成果物

本プロジェクトの成果物は以下の URL から参照可能である。

<http://cafe.naver.com/sfckorean12>

このサイトは、2018 年度以降、シラバスや授業内で広く告知して学習者の便宜を図る。なお、今回は便宜的に容量の関係上、ブログ上にて公開しているが、今後は独自のサイトを作成しアップすることで、塾外の学習者にもアクセス可能な教材とする。

以上